⑶　長期未収附属病院収入	3,379,500		
及び未収附属病院収入	△　129,483	3,250,016	—
徴収不能引当金（＊３）	3,250,016		
⑷　現金及び預金	7,163,875	7,163,875	—
⑸　未収入金	770,480	770,480	—
⑹　国立大学財務・経営センター債務負担金	(3,532,022)	(3,916,528)	(384,505)
⑺　長期借入金	(22,815,924)	(22,801,734)	(△　14,189)
⑻　リース債務	(1,576,203)	(1,579,152)	(2,949)
⑼　未払金	(4,450,034)	(4,450,034)	—

（＊１）負債に計上されているものについては（　）で示している。
（＊２）長期貸付金に対する返還免除引当金を控除している。
（＊３）未収附属病院収入に対する徴収不能引当金を控除している。
（注１）金融商品の時価の算定方法
⑴　投資有価証券
これらの時価について、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。なお、有価証券の中に含まれる譲渡性預金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。
⑵　長期貸付金
回収見込額等により、時価を算定している。
⑶　長期未収附属病院収入及び未収附属病院収入
一般債権について短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。また、貸倒懸念債権等については、回収見込額等により、時価を算定している。
⑷　現金及び預金、⑸　未収入金、並びに⑼　未払金
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。
⑹　国立大学財務・経営センター債務負担金、⑺　長期借入金、並びに⑻　リース債務
これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入、またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっている。
８．賃貸等不動産の時価等の開示
賃貸等不動産の総額に重要性がないため、記載を省略している。
９．資産除去債務
⑴　当該資産除去債務の概要
附属病院建物等の解体時におけるアスベスト除去費用等につき資産除去債務を計上している。
⑵　当該資産除去債務の金額の算定方法
資産除去債務の見積りにあたり、取得時からの使用見込期間を30年から50年と見積り、割引率は使用見込期間を勘案し、使用見込期間に見合う国債の流通利回りを採用しており、2.266％から2.304％としている。
⑶　当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減
当事業年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりである。

期首残高	95,867千円
時の経過による調整額	1,522千円
資産除去債務の履行による減少額	△ 2,889千円
期末残高	94,500千円

10．固定資産の減損
⑴　減損を認識した固定資産
①　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価格等の概要　（単位：千円）

用　途	種　類	場　所	減損額
診　療	建　物	医学部附属病院　病院本館　東病棟（三重県津市江戸橋２―174）	201,603
診　療	建　物	医学部附属病院　霊安棟（三重県津市江戸橋２―174）	7,051
診　療	建　物	医学部附属病院　機械棟（三重県津市江戸橋２―174）	7,191

②　減損の認識に至った経緯
新病院開院に伴い、固定資産の全部又は一部につき、使用しないという決定を行ったため。
③　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳　（単位：千円）

場　所	種類	減損額	うち損益計算書に計上した額	うち損益計算書に計上していない額
医学部附属病院病院本館　東病棟（三重県津市江戸橋２―174）	建物	201,603	201,479	123
医学部附属病院　霊安棟（三重県津市江戸橋２―174）	建物	7,051	6,685	365
医学部附属病院　機械棟（三重県津市江戸橋２―174）	建物	7,191	7,191	—

④　回収可能サービス価額の算定方法
新病院開院に伴い、取り壊しが予定されているため、回収可能サービス価額は使用価値相当額（―千円）を算定している。